

公表：平成 30 年 4 月

事業所名 児童発達支援センター 三気の家

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・設備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係が適切である。	7	1	整理整頓を行い、スペースを確保している。グループ活動など内容や年齢別の活動の際、部屋を分け活動している。	
	②	職員の配置数は適切である	8	0	充分と感じる。	
	③	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	7	1	ベットの横に写真を貼り、分かりやすくしている。移動可のパーテーションを利用し、環境作り、内容の変更に対応している。	床の段差、ドアの開閉等バリアフリーではない。階段の段差が大きい。
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	8	0	療育の前後に掃除を行い、清潔な環境を保っている。道具の不備がないかの確認を定期的実施している。安全確認、環境整備を行っている。	
業務改善	⑤	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	8	0	朝礼、夕例時に職員全体で確認している。	
	⑥	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	8	0	個別面談で話を聞き、改善に繋げている。迅速な対応を心がけている。	
	⑦	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	8	0	公表している。	
	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	8	0	評価結果を元にすぐに対応できる様に工夫している。	
	⑨	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	8	0	積極的に研修の機会が与えられている。	
適切な支援提供	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	8	0	保護者、担当職員でワークショップを行った後、全体での会議を開催し、客観的な意見も取り込み計画書作成している。	
	⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	0	8	個別ファイルで確認している。	園独自の個人の状態像を記入。標準化されたものではない。
	⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている。	8	0	ガイドラインを元に、個別支援計画を立案し、保護者への周知を行っている。	

関係機関・保護者の連携 関係機関・保護者の連携	⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	8	0	個別の個人目標（園内で利用する毎月の目標）に児童発達支援計画を反映している。	
	⑭	活動プログラムの立案をチームで行っている	8	0	毎日の夕礼（反省会）時、意見を出し合い決定している。 職員全体に図り、立案できている。 リーダーが中心となり立案している。	
	⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	8	0	子どもの参加状況（登園児）、目標課題、行事を考慮し行えている。 子どもの様子に合わせ、活動プログラムに変化を持たせている。曜日ごとに考えている。	
	⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	8	0	言語訓練、動作法訓練、音楽療法、個別学習等、個別の対応、集団活動を組み入れ計画を作成している。	
	⑰	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	8	0	毎日、リーダーとなる職員がその日の療育内容や役割を伝え、全体で把握している。職員の配置、役割も全体で把握している。	
	⑱	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	8	0	毎日の夕礼（反省会）を行い、スタッフ全員で共有している。 夕礼（反省会）を固定した事が良かった。	
	⑲	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	8	0	個別目標を毎月必ず立て、夕礼（反省会）で評価、確認している。	
	⑳	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	8	0	記録に元づいて、次の改善や目標のレベルアップに繋げている。 モニタリング、個別支援計画案を元に全スタッフで検討会議をし、専門分野でのアドバイスをもらっている。	
	㉑	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	8	0	児童発達支援管理責任者が必ず参加している。	
	㉒	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	8	0	ケースにより、会議等の出席を行っている。	
	㉓	（医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合） 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている			該当なし	
	㉔	（医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合） 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	8	0	日常的な医療ケアが必要な子どもはいない。てんかん発作、食物アレルギー等、緊急対応が必要な子どもに対しての医療機関との連絡体制はできていない。（保護者からの情報影響有り）	
	㉕	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校（幼稚部）等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	8	0	連絡を行う様に心がけている。	充分にできているとは言えない。
	㉖	移行支援として、小学校や特別支援学校（小学部）との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	8	0	申し送りを行い、相互理解を図っている。 実施しているが、ケースによって不足していると思われるケースもある。	
	㉗	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	8	0	ファミリー学習会（障害・対応法等についての学習会）を年10回企画し、保護者、地域の方へ参加を呼びかけている。 他機関への研修に出向いている。	
	㉘	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	8	0	期的（年間8回程）、保育園との交流会を行っている。 前期、後期で反省会を保育園と行い、よりよい交流になるように勤めている。	

	29	(自立支援) 協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	6	2	子ども部会へ毎月参加している。	
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	7	1	連絡ノートや個人面談で子どもの状態を逐一伝え合い、課題を保護者と共に確認し、目標を設定している。	
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	8	0	様々な事を行っているが、マニュアル化できる様、方針、実例を整理できればいいと思う。 学習会、保護者と子どもとが過ごす時間、または連絡ノート等でその都度実践を伴った支援ができていると思う。	
保護者の話し相手等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	8	0	毎年行う、療育説明会にて説明をしている。	
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	8	0	定期的な児童発達支援計画の説明、同意を得て養育を行っている。	
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	8	0	毎月の面接、毎日の連絡帳等、それぞれの親子と連絡や確認がとりやすい方法を工夫している。 日頃からコミュニケーションを取り、相談しやすい関係作りを行っている。 親子タイム(登園時)の時間に話す機会がある。	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	8	0	卒園児保護者の子育てについての勉強会を毎年実施している。 親子通園の日に話す機会を設けている。	
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	8	0	園長、担当職員が窓口となり話を聞き、職員に周知している。	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	8	0	毎月、機関紙「さんき」をhっこうしている。 ホームページに掲載。	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	8	0	資料等外部持ち出さないように徹底している。	
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	8	0	視覚支援を必要に応じ取り入れている。	
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	0	8	定期的に行っている学習会への呼びかけは行い、参加がある。	地域の方が参加する行事は実施なし。
	非常時の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	8	0	マニュアルを作成し、職員に周知している。
42		非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	8	0	敷地内での訓練は出来ている。	園外での訓練も検討。
43		事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認している	7	1	張り紙の掲示で、日頃から確認しやすい様に工夫している。 全保護者の分かりやすいように掲示している。	

④④	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	7	1	必要な子どもは医師の指示を保護者が聞き職員に伝えてもらっている。 食べる種類の少ない子どもに対しては、食材が増えた際は、アレルギー検査を必要とすると安心して療育出来る。	
④⑤	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	8	0	会議にて職員の対応を共有している。迅速な対応をしている。	スタッフ通 用口、未使 用の部屋の 施錠の徹底 がない為職 員全体で徹 底に努める 必要がある
④⑥	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	7	1	職員会議等で周知している。	
④⑦	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	6	2	身体拘束の必要な子どもは居ない。 必要な場合は支援計画に記載する。	明確に説明 できるほど 整理されて いない

- この「事業所における自己評価
- の結果を集計したものです。